

第6学年〇組 道徳学習指導案

平成17年 月 日 (〇曜日) 第〇時限 6年〇組教室

指導者 田中 清彦

1 主 題 名 いちばん高いねだんの絵 (2-3) 信頼・友情 【出典：明るい心】

2 主題について

(1) 学級の児童の実態

本学級の児童は、「友達と仲よくしよう。困っている人を助けよう。」という言葉
を素直に受け止め、友達が学習用具を忘れると自分のものを貸してあげたり、体調
の悪い友達やけがをした友達を保健室へ連れて行ったりしている。しかし、遊びや
好きなことなどに夢中になっているときは、ささいな出来事が原因で、もめ事やい
じわる、仲間はずれが起きることがある。また、自分が考えていることやしたいと
思っていることは、友達も自分と同じように考えていると思いついでいる児童も多
い。その理由としては、自己中心的な考えや相手の立場になって考えようとする意
識の低さなどが考えられる。

また、高学年の女子の特徴として小グループになって行動する傾向が見られる。
一見、同じグループだから友情が育っているように見えるが、そうとは限らない場
合が見られる。それは、一人でいることへの不安を解消するためのグループであつ
たり、損得感情で一緒にいるだけの関係であつたりして、友達のすばらしさを感じ
取ることができていないためであると考えられる。

(2) 学習内容

本主題の内容項目「信頼・友情」は、視点2「主として他の人とのかかわりに関
すること」の(3)に位置付けられている。

本学級の児童は自分の損得感情で友達を選びがちだが、それでは相互の理解や交
流があまり深まらないであろう。学校生活における友達関係は、相互に役立つこと
を期待し合ったり競争したりしながらも、家族に対する心情と似たものを互いにも
ち合うことによって、より望ましい方向に培われていくものと考えられる。さらに、相
手の調子がいいときは友達だが、相手の立場が悪くなると離れてしまう、といった
ようでは真の友情とはいえない。むしろ相手が苦しい立場にいるときほど、その人
の味方になってあげられるような心が大切であると考えられる。

そこで、「友達と仲よくすることのすばらしさ」「互いに助け合おうとする心の大
切さ」に気付かせ、相手の立場に立って友達と仲よく楽しい生活を送ろうとする気
持ちは育てたいと考えた。

さらに、この時期に友情を大切にしようとする気持ちを高めていくことは、豊か
な人間関係を築く上で大切であり、よりよく生きようとする上で必要な資質である
と考えられる。

(3) 資料の解釈と取り扱い

本資料は、生活が苦しいときにルソーに助けてもらったミレーの気持ちの変容を中心に描かれている話である。ルソーの行為に対するミレーの気持ちに児童は共感しやすいと考えられるが、特に、ミレーに手を差し伸べたルソーの見返りを期待しない気持ちに気付かせたい。そこで、本時はルソーの気持ちを中心に考えさせる。

第1の着眼点は、ルソーが絵を買い取ろうと決心したのは、貧しい上に厳しい批評を受け自殺まで考えたミレーを何とか救いたかったことに気付かせたい。

第2は、ミレーにお金を手渡したルソーの気持ちについて考えさせて、ルソーも豊かではなかったが友達のためにした行為であることに気付かせたい。

第3は、ミレーが流した涙を見た時のルソーの気持ちや「うん、たぶん言わないね。」といったルソーの言葉の意味を考えさせることを通して、ミレーに自分が絵を買い取ったことを知らせなかったのはルソーに見返りを期待しない気持ちがあることに気付かせ、友達を思うルソーの心の深さに触れさせたい。

(4) 本研究「思いが輝く道徳授業」との関連

今までの道徳の授業において、児童の発言を受容することを優先し、「いろいろな考え方が出たね。」で満足してしまう面があった。これでは本当に気持ちが高まったり、考えが深まったりできたとは言えないときがある。そこで本研究では、発言した児童に教師が「問い返しの発問」を行うことで、もう一步深く考えさせ、新しく気付いた感じ方・考え方を基に、話し合う活動を通して、思いが輝く児童の姿を表出していきたい。

3 指導計画（1時間完了）

4 本時の指導

(1) 目 標 ルソーの見返りを期待しない行為から、ミレーを思う深い心配りに気付き、友達を大切にしていこうとする気持ちを高める。【発言、プリント】

(2) 準 備 教師 ルソーとミレーの表情絵 場面絵1・2（板書案参照）
PC（パワーポイント） プロジェクター スクリーン
児童 道徳カード

(3) 関 連 5年「ナイスシュート」 中1「ライバル」

(4) 評価の観点

本時の指導で、児童がどのように変容したかを検証するために、展開後段で、児童に「どんな友情を育てていきたいか。」を道徳カードに書かせ、以下の観点に沿って分析し評価する。

友情について

【授業前の児童の様子と考え方】

- □□してくれるから友達を大切にしているよ。
- 友達だったら、自分を助けてくれるべきだ。

⇒

【授業を通して高めたい児童の考え方】

- 自分のことよりも友達のことを真剣に考えていきたいな。
- お互いに助け合う仲間になっていきたい。

(5) 指導過程 (□で囲った部分は、問い返しの発問例)



時間配分	学 習 活 動	教材等	教師の働きかけと発問	予想する児童の反応
5分	1 本時の学習内容に関心や意欲をもち、学習課題を確認する。	パワーポイント	① あなたにとって、「友達」とはどんな存在ですか。	①・遊び仲間。 ・一緒にいると楽しい人。 ・何かをしてもらった時に優しくしてくれる。 ・悲しい時やつらい時になぐさめてくれる。
27分 (5分)	2 資料「一番高いねだんの絵」を読んでルソーの気持ちについて話し合う。	パワーポイント		
(5分)		パワーポイント	② いつ自殺するか分からないミレーを、ルソーはどんな気持ちで見ていたのでしょうか。	②・心配だな。 ・かわいそうだな。 ・落ち込んでいるな。 ・大丈夫かな。 ・助けてあげたい。 ・自殺させるわけにはいかない。何とかしないと。 ・頑張してほしいな。
(5分)		パワーポイント	③ 何百フランかのお金をミレーに手渡した時、ルソーはどんなことを思ったのでしょうか。	・うそがばれないかな。 ・お金を受け取ってくれてうれしいよ。 ・ミレー頑張ってくれ。 ・自殺なんかするなよ。 ・これで自信をつけてくれ。 ・これで冬が越せるだろう。 ・僕も苦しいけど、ミレーはもっと苦しいんだ。
(7分)		パワーポイント	④ ミレーの流す涙を見た時、ルソーはどんなことを思ったのでしょうか。	・僕がミレーのことを思ってやったことはむだではなかった。 ・僕は病気になってしまったが、ミレーが有名になってよかった。 ・君が画家として有名になってうれしいよ。 ・僕のために涙を流すミレーと友達でよかった。 ・泣かなくてもいいよ。僕がのぞんでやったことだから。

指導上の留意点	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達について想起しやすいようにするために、パワーポイントで学級の写真を提示する。 ○ 自分が友達を大切にしているのは友達から何かやってもらっているからといった損得感情が入っている場合があることに気付かせる。 ○ 資料範読の前に、読み誤りがないように、ルソーは有名だったが豊かではなかったことを、ミレーは貧しくて落選していたことを事前に板書しておく。 ○ 資料提示の際に、ミレーが描いた絵をパワーポイントで紹介したり、BGMを流したりして雰囲気を出し、資料の世界に浸らせる。 ○ ②の発問の前に、ミレーの状況が大変であることを再確認し、ルソーがミレーを思う気持ちにより迫らせるために、落ち込んでいるミレーを写した画面をしばらく見つめさせ、児童の思いを引き出しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達とはどんな存在かを発表することができたか、発言内容からつかむ。 ○ ミレーに対して心から心配するルソーの気持ちに気付くことができたか、発言内容や表情からつかむ。
<p>【②の発問で、「心配だな。」といった発言があった場合】</p> <p>「ルソーが心配なのはミレーがどうなることだと思っているのかな。」と問い返す。</p> <p>意図 ルソーがミレーに対して、ただ単に心配しているのではなくて、自殺をしないだろうかといった心からの心配をしている様子を引き出せるようにする。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ ③の発問をする前に、ミレーに手渡ししたお金は、実はルソーがミレーに気付かれないように仕組んだ作戦であることを確認する。 ○ ③において、ルソーがミレーにお金を手渡す場面の画面に注目させ、ルソーの気持ちを吹き出して表し、そこにどんな気持ちが入るかを考えさせる。 ○ 豊かでないルソーもミレーの状況を知り、やむにやまれぬ気持ちでお金を手渡したことに気付かせるとともに、ミレーのためにお金を手渡した時のルソーの気持ちには悔いがないことをおさえる。 ○ ④の発問の前に、涙を流したミレーの気持ちを考えさせ、支えてくれたのが実はルソーだったことを初めて知ったミレーの驚き、感動、感謝の気持ちに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見返りを期待しないルソーの友情の深さに気付いたか、発言内容や表情からつかむ。
<p>【④の発問で、「ミレーのためになってよかった。」といった発言があった場合】</p> <p>「自分が苦しくても、ミレーが成功したことがルソーの喜びになるのかな。」と問い返す。</p> <p>意図 見返りを期待していないルソーの気持ちを考えさせるために、ミレーのための行動がルソーの喜びになっていることに気付かせる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 問い返しをしても児童からの発言が引き出せられなかった場合は、「みんなはどう思いますか。」と全体に投げ掛けたり、近くの児童同士で話し合わせたりするように指示する。 	

時間配分	学 習 活 動	教材等	教師の働きかけと発問	予想する児童の反応
(5分)		パワーポイント	⑤ ルソーが「うん、たぶん言わないね。」と言ったのはどうしてでしょうか。	⑤・ミレーに気を使わせたくなかったから。 ・ミレーの心を傷つけるといけないから。 ・わざわざ言うほどでもないと思ったから。 ・言わなくても、ルソーの気持ちはミレーに伝わっていると思うから。 ・ミレーの活躍している様子が見られてそれで十分だったから。 ・本当のことを言わなくてもルソーはミレーが素晴らしい画家として活躍していること自体を自分の喜びに感じているから。
11分 (3分)	3 自分と友達との関係を見つめ直す。		⑥ 二人の友情の話を聞いて、あなたはどんなことを思いました。	⑥・すごいなあ。 ・二人の友情と比べると自分たちの友情はまだまだだと思う。 ・自分は、ルソーのようにはなれないなあ。
(8分)		道徳カード	⑦ これから、友達とどんな友情を育てていきたいですか。	⑦・とにかく友達のことを大事にする。 ・友達のことをもっと考えていきたい。 ・ルソーのように、自分のことよりも友達のことを真剣に考えていきたい。 ・友達が何か困っている時に声を掛けて手伝ってあげるのが大切だと思う。 ・お互いに助け合う仲間になっていきたい。 ・たとえ離れていても友達のことをいつも考えていられる自分になりたいな。
2分	4 本時のまとめをする。	パワーポイント	⑧ 話し合ったことを思い出しながらスクリーンを見ましょう。	⑧・友達っていいもんだな。 ・あの子とずっと友達でいたいな。 ・これからも友達を大切にしていこう。

指導上の留意点	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> ○ 意見が出にくい場合は、「もしもルソーがミレーに本当のことを言ってしまったら、ミレーはどう思うかな。」と改めて発問をして、ミレーの側から考えさせて、ねらいに迫れるようにする。 ○ ⑤の発問において、ルソーは、ミレーからの感謝の言葉を期待していなかったことやミレーに気を使わせたくなかった気持ちがあり、友達のルソーがすばらしい画家として活躍していること自体がうれしかったことを児童とともに確認する。 ○ 場合によっては、もう一步深めさせるために「親友のルソーが買ったねだんが一番高いのだといえるのではないのでしょうか。」という最後の文章に着目させて、その意味を話し合う場面を設けて、ルソーが買い取った絵はミレーとの友情の証であることを児童とともに確認する。 ○ 先に亡くなったルソーの墓の横に、ミレーの墓が隣同士で並んでいるエピソードを紹介し、二人は亡くなっても友達であることを紹介する。 	
<p>【⑦の発問で、「ルソーはすごい」「ルソーのようになれない。」といった発言があった場合】</p> <p>「ルソーのようでもなくとも、あなたが友達に対してできることがあるはず。これから友達とどんな友情を育てていきたいかな。」と問い返す。</p> <p>意図 自分を深く見つめさせることによって、今の自分よりもよりよくなりたいという思いを強くもたせる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童にどのように自分の考えや思いを道徳カードに記述すればよいかをイメージしやすいように、友達とどんな友情を育てていきたいかを数人の児童に発表させた後に、道徳カードを配布する。 ○ 最初に板書した友達についての内容を見て、自分が考えていた友達とルソーのミレーを思う心の深さに目を向けさせ、自分と照らし合わせて、道徳カードに書くように指示する。 ○ 机間指導を行い、記述できた児童の内容を把握して、発表の際に意図的に指名できるようにしておく。 ★ カードに記述できていない児童に対しては、その子に合った問い返しをする等の支援をして、自分にもできそうなことを少しでも書けばよいことを話し、安心して記入することができるようにする。 ★ カードの記述が早く終わってしまった児童に対しては、今ある友情をよりよくしていくにはどうすればよいかという視点で、より具体的に記入できるようにさせる。 ○ 友達との触れ合いという視点から、パワーポイントの画面を視聴させることを通して、友達っていいなという気持ちを感じ取らせ、余韻が残るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんな友情を育てていきたいかを書くことができたか、道徳カードの記述内容からつかむ。 ○ 友達を大切にしようとする気持ちが高まったか、パワーポイントの画面を見ている様子からつかむ。

(5) 板書案 (●の部分は資料範読前に板書する。)


<p>どんな友情を育てていきたいか。</p>	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>	<p>「うん、たぶん言わないね。」</p>	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>	<p>なみだを流すミレーを見た時</p>	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>	<p>ミレーにお金を手渡した時</p>	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>	<p>落ちこむミレーを見た時</p>	<p>ルソー 表情絵</p> <p>●有名な風景画家 ●実は豊かでない</p>	<p>ミレー 表情絵</p> <p>●貧しい生活 ●展覧会に落選</p>	<p>友達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊んでくれる ・何かしてもらえる ・相談にのってくれる ・なぐさめてくれる <p>いちばん高いねだんの絵</p>
					<p>場面絵 1</p>						
	<p>場面絵 2</p>										

5 備考

○ 道徳カード (B5 横。展開後段で使用。)

道徳カード 「いちばん高いねだんの絵」 氏名【 】

★ これから友達とどんな友情を育てていきたいですか。



ルソー ミレー

いちばん高いねだんの絵

ジャン・フランソワ・ミレーは、貧しい画家でした。パリで、食うや食わずの生活が続
き、妻と子どもをかかえて、それでもがんばっていました。

1849年、ミレーは、美しい自然の風景を絵にしようという画家が何人か住んでいる
パリ郊外のバビルゾン村に移り住みました。そこで、ミレーより二つ年上のテオドール・
ルソーという風景画家と親しくなりました。ルソーは、パリでも認められて有名になって
いました。

あるとき、ルソーは、ミレーをはげまして言いました。

「この前、パリの展覧会で入選した作品は、ぼくも見た。すばらしかった。君は農村の風
景の中に生きる農民を大きく取り上げてかいている。」

「ありがとう、ルソー君。そう言われると、ぼくはどんなに心強いかしれない。」

ミレーは、つかれも知らずに、村じゅうを歩き回ってスケッチし、次から次へと油絵を
仕上げていきました。とはいっても、ひどく貧しく、その日のパンを買えないことも当た
り前のようなありさまでした。貧しいだけならまだしも、展覧会に作品を出して、落選し
たばかりか、きびしい批評をあびせられ、ミレーは何度も自殺しようと思いました。その
たびにはげましてくれたのがルソーでした。

ある冬のことです。ろくに食べるものがないうえに、ストーブにたくまきも買えなくて、
ミレー一家は、寒さにふるえていました。

「ミレー君、いい知らせだよ。君の絵を買いたいという人があってね、僕が頼まれて代わ
りにやってきたんだ。」

「ルソー君、うそじゃないだろうね。今絵が売れたら、天国にいけるような気持ちだよ。
たとえ、スケッチ一枚だって、助かる。」

「だめだめ。スケッチじゃ、たいしたお金にならない。この間、完成した『接ぎ木をする
農夫』がいい。ぼくは傑作だと思う。作品も、ねだんも、ぼくに任されているんだ。これ
くらいならどうだろう。」

ルソーは、何百フランかのお金をミレーに手渡しました。

「ありがとう。こんなねだんで売れるなんて、夢のようだ！絵を買ってくれるという人に
よろしく言ってくれたまえ。」

ルソーは、カンバスをかかえると、すぐに帰って行きました。

おかげでミレー一家は、この冬をなんとか過ごすことができました。こうした生活の中
で、ミレーは、『落穂ひろい』『晩鐘』をかき、パリでも認められる農民画家になりました。

ミレーよりも先に有名になったルソーでしたが、それほど豊かであったわけではありま

せん。

「このところ会っていないが、ルソー君はどうしているのだろう。病気でねこんでいるのかもしれない。」

ミレーはふと気がかりになりました。

思ったとおりでした。ベッドに横になっているルソーに毛布をきちんとかけてやりながら、ミレーは、かべにかけられている一枚の絵に気づきました。

「ルソー君、このかべの絵は、たしか、ぼくの……？」

「そうだよ。まぎれもなく、きみがかいた『接ぎ木をする農夫』だよ。」

ルソーはにっこりしました。

「だけどきみ、この絵をまた買いもどしたのかい？そんなことをしなくたって、きみがほしいと言ってくれれば、いつだって、ぼくの絵を持ってきたのに。」

「じつはね、買いもどしたわけでも、なんでもない。初めから、ぼくがほしかったんだ。ぼくが、ぼくにたのまれて、きみから買ったのさ。」

「ええっ？なんだって、きみ！」

ミレーは思わず、ルソーのまくらもとに、ひざまずいていました。ミレーは、この友達の手を、しっかりとにぎりしめました。ミレーの目からあふれ出たなみだが、結ばれた手の上に、ぽとぽと落ちました。

「ずっと、この絵はこの壁に飾られていたんだね。この絵はなんと幸せな絵だろう。」とミレーは言いました。それが、ルソーの友情への、心からの感謝の言葉だったのです。

あのころ、あのねだんで絵を買い取れるほど、ルソーが豊かではなかったことを、ミレーは知っていました。あまりの生活の苦しさに、ミレーが自殺さえしかねないありさまを見かねて、ルソーが救いの手をさしのべたのでした。それも、ミレーの心が傷つかないように、絵が売れるという心の支えができるようにと、深い心配りをして。

「もし、今日のようなことがなければ、きみはついに、本当のことを、ぼくに言わなかったらう？」ミレーは言いました。

「うん。たぶん、言わないね。」ルソーが答えました。

数年後、ルソーは55才で、ミレーは61才でなくなりました。その死後、ミレーがかいた絵はおどろくようなねだんで売り買いされました。でも、親友のルソーが買ったねだんがいちばん高いのだと、いえるのではないのでしょうか。

【明るい心6年：愛知県教育振興会】

〈愛と友情のものがたり「みんな友だち四年生」(桜井信夫)〉による